

まえがき

高等学校学習指導要領は、今年度から全日制の全学年で実施となり、各学校においては、特色ある教育課程の編成・実施に取り組まれているところですが、昨年11月の文部科学大臣の諮問により、次期学習指導要領の改訂に向けた検討もスタートしているところです。

この中では、教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉え、「何を教えるか」という知識の質や量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習・指導方法の充実が求められております。さらに、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点から学習評価の在り方についても、改善を図る必要があるとしています。

こうした将来的な展望を見据えながらも、現行の学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等の育成を目指し、各教科における言語活動の充実を図るとともに、指導と評価の一体化の一層の充実を図る授業改善が必要と考えており、本年度の手引では「学習指導と評価の改善・充実」、「『確かな学力』を育成する取組の改善・充実」等を取り上げ、学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実などの指導事例等を掲載することとしました。

各学校において、本手引が十分に活用され、学習指導や学習評価の改善が図られるとともに、地域や学校の実態に応じた創意工夫あふれる特色ある教育課程が編成・実施されるよう願っております。

平成27年11月

北海道教育庁学校教育局高校教育課長

赤間 幸人